

## 行政視察報告

視察日時	令和2年10月13日（火） 午後1時30分～午後3時00分
視察場所	宮城県気仙沼市役所
視察項目	気仙沼市総合交通計画における取組について
視 察 者	総務文教常任委員会委員 8名 同行当局職員 1名 事務局職員 1名
視察概要	<p>本市で現在計画している公共交通計画を平成29年に策定、令和3年度に計画期間を迎える気仙沼市総合交通計画の現状と、震災で甚大な被害を受けたJR大船渡線及び気仙沼線の一部でBRT（バス・ラピッド・トランジット（Bus Rapid Transit））を運行し、地域の足として新たな交通の体系を作った宮城県気仙沼市の先進事例を学ぶべく視察先に選定した。</p> <p>気仙沼市では、2011年の東日本大震災後、居住エリアや商業地エリアなどが大きく変わったことから、震災後のまちづくりに対応し、持続可能で市民に有益な公共交通体系を構築するために総合交通計画を策定した。事業計画は、主に復興関連事業などを踏まえた市の将来を見据えたもので、公共交通が果たすべき役割の明確化、さらには地域の課題解決に向けた取組等がまとめられている。</p> <p>計画から4年が経過し、すでに市内循環バスや新市立病院へのアクセス確保、学校の移転・統廃合に対応した公共交通形態など、着実に事業が進められている一方で、新型コロナウイルスによる影響で見込んでいた循環バス利用者数が6～8割に下がるなど厳しい状況が続いている。また、公共交通の空白地帯である地区を結ぶ3つの実証実験として、公用車を地域に無償貸与し、地域住民の互助会が運営主体となって運行する移動支援策、既存の患者輸送バスを活用し一般利用も可能とした一般客混乗実証実験、既存バス路線運行終了後に予約型の乗合タクシーを増便した予約運行乗合タクシーの導入など、様々な取組がなされている。</p> <p>今回の計画の結果を受け、令和4年に次期総合計画を策定予定で、現在進行中の各種復興事業の完遂、BRT新駅設置後の最終的な運行形態、将来的な公共交通の在り方等を踏まえた計画を作る予定だという。</p>
本市に生かせる視点	<p>これまで本市としては、実現性が高いもののみを実証実験として行ってきたが、実際の利用者数やニーズ有無など、運行することでわかる調査もあり、市民の利便性向上のため、積極的に本市としても実証実験を取り入れていく必要があると認識した。</p> <p>さらに、本市には土日祝に運休になる民間路線もあるが、気仙沼市で導入した予約型乗合タクシーは空白を補完する公共交通政策として非常</p>

に有意義なものであることから、必要路線や時間などを検討すべきだと思われる。また、バス路線の見直しについては、現在進行している小中学校の統合や高校の再編に合わせ、新路線やバス時間を配慮し、利用促進をしていくべきだと考える。



↑南気仙沼駅前停留所に入る循環バス



↑バス専用道路を通過して南気仙沼駅に到着する JR 気仙沼線 BRT